

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900488
法人名	吉田興産有限会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2
自己評価作成日	平成23年1月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームさくらは、自然に囲まれており、桜やコスモス、紅葉等、季節感を肌で感じることができる場所にあります。また、グループホームは地域密着型サービスの1つであり、地域のニーズに対応できるよう、デイサービスも行っています。在宅の方がデイサービスを利用することで、入居者様と地域の住民が同じ空間で共に過ごすことができる環境を提供することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の方は日頃より事業所のことを気にくださっており、畑で採れた野菜を持って来てくださったり、事業所の畑について、苗の植え方や肥料を施す時期等を教えてくださる。使わなくなった農機具をくださったり利用者が「クロッカー」を楽しめるように、地域の方が庭にクロッカーの球を潜らせる「フープ」を作ってください道具を寄付してください。

前回の外部評価結果を受けて、車椅子を使用する利用者の抑制帯について、行わなくても済む工夫を全職員で話し合わせ、現在は、車椅子使用時は職員が見守り、ソファに座ったり、体の傾きが見られたら、ベッドで休んでいたく等、細やかに支援して、抑制帯を使用しなくても済むように職員が一丸となって対応されている。

時には、職員がそば打ちをしたり、利用者と一緒に梅干作りや茶揉みをして手作りのものを楽しんでいる。暖かい日には、庭にある東屋で食事やおやつを楽しむこともある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 富永 正樹

評価完了日 23年 1月 14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 目のつくところに理念、目標を掲示し、日々確認をしながら 日常生活のケアを行っている。 (外部評価) 事業所では「利用者の生きがい」を大切にしたい理念を新たに 作成して、事務室等に掲示されていた。利用者一人ひとり について、ご本人の「生きがいって何だろう」ということについて 職員で話し合いながら取り組みをすすめておられ、職員は「 笑顔と思いやり」を目標に決めて、ケアに努めておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) ホームで行事をする際には、近隣の方々に参加していただ いたり、「さくらだより」を公民館に掲示、配布している。 (外部評価) 地域の方は日頃より事業所のことを気にしてくださっており、畑で採 れた野菜を持って来てくださったり、事業所の畑について、苗の植 え方や肥料を施す時期等を教えてくださる。使わなくなった農機 具をくださったり利用者が「クローカー」を楽しめるように、地域の方が 庭にクローカーの球を潜らせる「フープ」を作ってください道具を寄 付してください。事業所のために野菜を作ることを楽しみにしてく ださる地域の高齢者がおられ、職員と利用者で収穫をさせていた だき、お礼に、草引きのお手伝いをされている。8月に事業所で開 催された「納涼祭」には、80名ほどの地域の方が集まってくださ った。保育園児から高校生までの参加もあり、ダンスを披露してくれ たり、じゃんけんゲームやビンゴゲーム等を楽しみながら、利用者全 員が地域の方と交流された。定期的に小学校との交流や幼稚園に 出かける機会を作っておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 地域の中学校に職場体験学習の呼びかけをしたり、福祉・ 介護実習の受入れを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) グループホームの現在の状況や、利用者様と一緒にいったサービス提供情報等を報告している。推進委員の方々にも積極的にグループホーム内にはいっていただき利用者様と交流をはかってもらい今後の行事等を一緒に検討し意見をだしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、民生委員や公民館長、お寺の住職等にも参加していただいている。昨年までの会議では、利用者の状況等を報告した後、自由に意見交換を行うようにされていたが、地域の方から「議題を決めてもらった方が、勉強してから参加できる」と意見をいただき、1月の会議は「グループホームの仕組み」と、議題を決めて会議を行われた。又、話し合いだけでなく「ホームの中の様子を見る時間を作った方が、より分かりやすいのではないか」との提案もあり、見学もしていただいた。管理者は、さらに認知症の理解を拡げたり、事業所の取組みを知っていただくために、会議で参加者が「利用者との交流」できるような機会も作っていきたくて考えておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険事業報告の説明を受けたり、入退居情報の交換を密に行うことによって、待機者の方の負担が重くならないように心がけている。</p> <p>(外部評価) 町の担当者には、運営推進会議に参加していただいている。火災や虐待等について、意見交換した際には、地域の現状や体験等を話していただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員が研修に積極的に参加し、学んだことをスタッフ会議で発表、議論し身体拘束について理解している。安全上やむを得ない場合はご家族様に相談し理解の上許可をえているが、職員一同ケアに工夫をして身体拘束のないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 前回の外部評価結果を受けて、車椅子を使用する利用者の抑制帯について、行わなくても済む工夫を全職員で話し合われ、現在は、車椅子使用時は職員が見守り、ソファに座ったり、体の傾きが見られたら、ベッドで休んでいただく等、細やかに支援して、抑制帯を使用しなくても済むように職員が一丸となって対応されている。玄関の自動ドアは、24時間施錠されていない。又、裏口も日中は鍵をかけていない。裏口を出て手すり伝いに歩くと玄関に出てくるようになっており、利用者は思い思いに歩いておられる。事業所の前の道は国道であるため、職員は、見守り等、利用者の安全には注意を払っておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	身体的虐待のみに視点を置くのではなく、さまざまな虐待についての話し合いの機会を設け、徹底を図っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	外部の研修会に積極的に参加するようにしている。また、研修会で学んだことを内部の研修会に活かすことで、全職員が理解することができるよう心がけている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	契約書、重要事項説明書に添い説明をしている。不安や疑問点を尋ね、利用者様や家族様にも安心していただけるよう心がけている。 介護報酬の改定の際には、説明を行いまた連絡文章を送付している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	契約の際には苦情受付の説明を行っている。また、苦情受付の第三者機関を掲示したり、意見や要望を投函できる意見箱を設置している。 家族様が面会に来られた時や、電話をいただいた時等には意見又は要望等はないか職員から声かけをしている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会議の際に、利用者様の報告だけをするのではなく、職員の意見や提案をだしてもらった時間をつくったり、自由に意見や提案をだせるように気づきの箱を設置している。また、意見を出してもらっただけでなく、職員に意見、要望等がないか、聴く姿勢にも努めている。 (外部評価) 1月に管理者の交代があった。管理者は「利用者第一は勿論のことであるが、職員のこと大切であり、働きやすい職場作りが利用者のケアにつながる」と考えておられ、夜勤の時間等、職員に悩みごと等はないか個別に話を聞くようにされている。又「気づきの箱」には、職員が気づいた時に意見等を入れる仕組みで、管理者が定期的に箱をチェックしておられ「ベランダの物干しに屋根をつけてほしい」と職員から提案があった際には、早急な対応がなされたようである。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 定期的にアンケートを実施したり、個々の面接を行うことにより、職員の希望に応じた勤務体制や職員に適した勤務体制を作成している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内をスタッフルームに掲示したり、連絡ノートに記入したりし参加するよう支援している。資格についてはアドバイスをを行い、資格取得への向上に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業者の勉強会やイベントに参加をしたり、こちらのイベントにも他事業者の利用者様や職員が参加していただくことにより交流を図っている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 開始をする前にこちらから訪問をして、困っていること、不安なこと等の話に耳を傾け、安心していただけるように話をしている。生活状況や昔話などを聞かせていただき、本人様の生活していた環境により近い支援ができるように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用するにあたり、家族様が抱えている悩み等を聴き、安心して入居していただけるように支援している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに入居するのではなく、インテークの段階で本人様に今必要なサービスを家族様を交えて一緒に話し合うようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その日の状態に応じて、お手伝いをさせていただいたり、一緒に家事を行い、共に生活しているという環境づくりを行っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様の状態、状況を面会時や月1回の状態報告書等にて伝えている。家族様からは本人様が安心できる声かけや趣味等の情報を提供していただき、日々のケアに活用している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 高齢で来訪することが困難な方には、事業所で送り迎えをしている。遠方より来られる方には、泊まりの場を提供することで、本人様とゆったりとした時間が過ごせるよう支援している。 (外部評価) ご自宅の近所に住んでおられた方が訪ねて来てくれることもある。ご家族に年賀状を書かれたり、手紙を出す方に職員がお手伝いをされている。年末年始、外泊してご家族と一緒に過ごされた方もおられる。遠くに住むご家族が事業所で泊まって利用者で過ごすようなこともできるようになっており、近々ご家族が来訪されることを楽しみにしている利用者がおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の関係を把握するにあたり、個々の性格や気持ちを職員が理解し、必要な際には職員が間に入り利用者様同士の関わりが築いていけるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院、退居をされた方には、病院に行き会話をしたり、洗濯やオムツ購入等の支援を行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人様より、生活を行っていくうえでの希望や意向を聴けるように関わりを多くもつよう心掛けている。 希望が上手に伝えられない利用者様の場合は、本人様の表情や状態から思いが把握できるよう努めている。 (外部評価) 入居時にフェイスシートを作成され、利用者個々の生活歴や趣味等を把握されている。日々、生活の中での希望はご本人から聞き取ったり、意思表示が難しい方は、ご本人の表情等から思いや意向を把握できるよう努め、ご家族にも聞くようにされている。事業所では「できること」だけでなく、「できそうなこと」についても支援できるよう、取り組みに努めておられる。	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を把握し支援していくために「さらに利用者の情報を共有したい」と話してもらった。利用者個々の情報を集めるアセスメントの工夫にも取り組み、利用者個々の生きがいのある暮らしを支えられるよう、介護計画につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様や家族様から生活歴や趣向等の情報を聴き、これまでの暮らしの把握に努めている。 前の事業所などの担当者の方にも連絡をとり、情報提供をしていただいている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人様の日々の過ごし方をや心身状態を把握することで残っている機能を活用するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族様の希望や本人様の希望を相互に取り入れたプランの作成に努めている。また、担当者会議やモニタリングを通して本人様の意向に沿った支援ができているか確認したり、プランに基づいた介護を職員が統一して行えるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 計画は基本的に入居後3ヶ月、その後は6ヶ月に1度見直しをされている。ご本人とご家族には来訪時や電話で希望をお聞きし、利用者個々の生活歴や趣味等も考慮して、計画を立てるようにされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者様ごとにファイルを作成し、日々の様子や状態、ケアの実践等を記入している。記録をもとに職員間で情報を共有し、行っているケアや介護計画を見直している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) デイサービス、介護タクシーが利用できる。 遠方への通院介助には介護タクシーを利用し、体の負担を軽減を図っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域で行われている行事や、小学校や保育園との交流会の案内をうけ、参加している。 地域の消防団の方々とも連携をとり防災活動の協力を得ながら支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居をされる前に、本人様や家族様とかかりつけ医について相談をし、納得をされた病院に通院介助をしている。利用者様別に受診ノートを作成し、職員は必ず確認をしている。ご家族様にも報告及び相談をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者個々の希望のかかりつけ医に、職員が同行して受診されている。緊急時の受診結果は、ご家族にその都度連絡をされるが、定期受診については月1回の「状態報告書」で状態を報告されている。眠剤の使用について事業所では「できるだけ使用しない」方針で取り組んでおられ、ご本人がどうしても眠れなくて困っている場合や、体調が優れない折りも起きて活動するような「身体に負担がある場合」は、ゆっくり眠ることができるよう服用を支援されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 介護職員が看護記録を作成し、医療についての助言や、適切な処置の仕方を学んでいる。また、看護職員がその記録に対してのアドバイスや受診等の指示をしている。その記録をもとに主治医に相談を行い、適切な受診の支援をしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院をされた利用者様の介護サマリーを病院関係者に提出したり、入院に同行した職員は今後の治療等の話を詳しく聴き情報交換に努めている。入院中に洗濯物やオムツを取りに行った際には、看護師から現在の状態を聴くようにしている。病院が行っている交流会にも参加し、情報交換や相談等ができる関係が築けている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化に徐々になられている利用者様のご家族には、ホームでの状況を詳しく説明し、受診をする際には来ていただき、主治医、家族様、職員で今後のことについて話し合いをしている。グループホームで最後を迎えたいと希望される場合は医療機関との連携をとり本人様が最後まで穏やかに過ごせるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 入居時、「看取りに関する指針」をもとに、ご家族に事業所の方針を説明し、事業所での看取り支援が可能であることを話しておられる。現在、半数のご家族が事業所での看取りを希望されている。職員は、10月に協力医で行われた「看取りについてのケア」「家族の心のケア」についての研修を受けられた。「最期までここにいたい」と決めた」と、ご本人がご家族に意思表示をされている方もあった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ホーム内に「AED」と設置し、「救急救命法」を学ぶために定期的に外部講師に来ていただき、知識や技術を学んでいる。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練と月1回の防火自主点検を実施している。車いすを利用している方の居室がすぐ分かるように、入口に室内図を貼り、車いすのマークを付けるようにしている。布団を使っての階段滑りや、消火器の使い方も把握している。	事業所では、消防団をはじめ地域の方の協力を得ながら避難訓練を実施することを予定されていた。今後は、夜間を想定された避難訓練や地震等、いろいろな場面を想定した避難訓練を重ね、協力者の役割等も明確にされ、さらに協力体制を作っていかれてほしい。
			(外部評価) 避難訓練時、職員は利用者役にもなり、事業所内の階段と非常階段の両方から布団を使って避難させる方法を体験された。地域の消防団は、いざという時には駆けつけてくれるようになっている。2月中にスプリンクラーが設置される予定になっている。又、玄関口にAEDを設置されており、いざという時は地域の方も利用できるよう、運営推進会議等で説明されている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は、利用者様は常に人生の先輩であるということを意識し、日々の生活においても、その場その場に応じた声かけができるよう気をつけている。	
			(外部評価) 管理者は「利用者一人ひとりの生き方にも違いがあり、それぞれに応じた介護をしていきたい」と話されていた。職員は「何かしてあげよう」という姿勢ではなく、利用者の目線で声かけや対応することに心がけておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 衣類の選択、外出、散歩、食事介助等、職員本位で支援、介護をするのではなく、利用者様の希望に沿った支援、援助をするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			決まった時間に食事を終わらしたり、決まった時間に全員が 起きるのではなく、1人ひとりのペースを大切に、1人ひとり のペースに応じた支援をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	
			着替えの準備をしてもらう際には本人様に洋服を選んでい ただいている。自己決定の難しい方には季節に応じた洋服 を、見てもらい声かけを行っている。 化粧品などは職員と一緒に買い物に行き、気に入った化粧 品を購入してもらっている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			地域住民の方より分けていただいた季節の野菜を、利用者 様にみていただき調理方法等を教えてもらい実践している。 下ごしらえの手伝いや、台拭き、配膳、下膳等も職員と一緒 に行ってもらっている。	
			(外部評価)	
			利用者の好みを聞き取りながら、その日食事を作る担当の 職員が献立を考えておられる。今の時期は、白菜や大根等 を地域の方からいただくことも多く、夏は、事業所の畑で収 穫した茄子やピーマン、トマト等が食卓を彩り、又、新鮮な野 菜を多く採り入れた献立となっている。調査訪問時は、昼食 のカレーライスで使うじゃがいもの皮むきをされていた。時 には、職員がそば打ちをしたり、利用者と一緒に梅干作りや茶 揉みをして手作りのものを楽しまれている。暖かい日には、 庭にある東屋で食事やおやつを楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	
			食事形態や、水分摂取方法等、1人ひとりの状態に合わせて 支援している。アレルギーをもっておられる方には別メニュー の提供もしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	
			1人ひとりの状態に合わせて、声かけ、見守り、介助等行っ ている。口腔内の清潔を保つことによって、食欲の向上や嚥下 機能の向上にもつなげている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人ひとりの排泄サイン、排泄リズムを職員が把握することによってスムーズなトイレ誘導に心がけている。また、トイレを分かりやすいように表示している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄サインを把握し、職員は見逃さないようにして、トイレ誘導することにより、ほとんど失敗されることなく、布パンツで過ごされる方もおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動では体操や歩行を行ったり、食事面では乳製品の摂取や栄養士の助言のもと自然排便を促すように心がけている。どうしても自然排便が困難な方には服薬にて調整を行っている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時には毎回利用者様に入浴の確認を行っている。入浴を希望されない場合には、シャワー浴や部分浴で対応する等、無理のない入浴をしている。入浴剤を入れたり、ゆず湯を行うことで、楽しむ入浴にも心がけている。	
			(外部評価) 週3回、午後から入浴時間となっている。建物内に複数の利用者で入ることができる大きな浴槽があり、1階、2階ユニットの利用者数名でお風呂を楽しむこともある。一緒に浴槽で温まりながら会話をしたり手の体操をされるようだ。足にむきみがある方は、入浴日以外は足浴を行いながら、職員がリンパマッサージ等を行い、利用者は「気持ちがいい」と喜ばれているようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) グループホームの流れではなく、一人ひとりのリズムに合わせてサービスの提供を行っている。入眠時間を決めるのではなく、眠たい時間になったら寝ていただけるように寝られない日は、ティータイムを設け会話したり、安眠できる環境づくり、室温調整や衣類の選択等を行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋一覧表を作成しており、服薬の変更時や受診時に処方された薬は毎回職員が記入し、全職員が目を通すようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人様、家族様や他事業所より生活歴や、嗜好品、趣味等の情報をいただいている。そして1人ひとりに合った役割や余暇活動をケアプランに取り入れ、提供している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人様の希望や体調、天候に合わせて少人数や大人数での外出をしている。季節感を感じていただくために、紅葉やお花見、コスモス畑等の外出を行ったり、庭の散歩、近くのお花を見に出かけたりしている。	
			(外部評価) 天気の良い日は、近くを散歩したり、職員と食材の買出しに出かけておられる。公園へドライブしたり、四万十川や滑床まで出かけることもある。松野町の「おさかな館」へ出かけた時は、利用者に売店で好みのお弁当を選んでいただいて、皆でお弁当を食べて帰られた。今後、利用者個々の「生まれたところへ出かけてみる」取り組みもすすめたいと管理者は話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 1人ひとりお買い物バッグを持っており、外出や通院に出かけた際には、自分でお金を払って飲み物やお菓子を買っていただいたり、週1回の移動販売では好きな物を選んで買ってもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由な場所で電話ができるように子機を使用したり、年賀状では、家族様に一言メッセージを書いていただくように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様が作った作品を展示したり、季節の花を飾り、居心地のよい環境に配慮している。ホールでは昔の浪曲を流したり、演歌のビデオを流すことによって、歌詞を口ずさまれたり、会話が弾んだりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関を入ると、正面に法人代表者が作成した押し花絵や利用者のご家族が撮った風景写真等が額入りで飾られてあった。壁には利用者が描いた絵等も飾られてあり、時計は利用者が見上げなくても見える高さに掛けられてあった。居間には畳の一角があり、利用者は洗濯物をたたんだり、お昼寝したりされている。調査訪問時、テーブルで花札や塗り絵をされる利用者の様子がうかがえた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>2,3人座れるソファや、リクライニングチェアを置き、隣同士に座り会話したり、ゆったりとくつろぐことのできる配慮をしている。また、畳みの空間では横になりながら会話をしたり、日向ぼっこをされる方もおられる。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居の際に、自宅で使われていた家具や寝具、筆記用具や思い出の写真等を持ってきていただいている。運ぶことが困難な家族様にはトラックで自宅に訪問し荷物を運ぶお手伝いをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入り口には、利用者が職員と折り紙で作った切絵細工を飾っておられた。ご自分の居室の入口が分かりにくい利用者には、ドアの持ち手に黄色の蛍光テープで目印を付けておられた。ベッドの布団はたたんであり、ベッドカバーが掛けられてあった。お出かけ用の上着をハンガーに掛け、靴を揃えて置いておられる方も見られた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>手摺りや車いす対応のトイレを設置している。居室には見やすいように本人様の名前を表示したり、トイレも分かりやすいような配慮をしている。</p>	